

# 実体経済の動向

## ◇生産、出荷は前月増加のあと減少、在庫は2ヵ月連続の減少

(生産——減少)

10月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比<sup>(注)</sup>、速報)は、-2.5%と前月増加(+1.2%)のあとかなりの減少となった(前年同月比-2.9%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

財別には、生産財、一般資本財を中心に各財とも減少した。

すなわち、生産財は、エチレン不況カルテル実施の化学製品(有機薬品、プラスチック等)や粗鋼、C重油を中心にかなりの減少を示したほか、一般資本財も振れの大きい化学機械、土木建設機械、産業用電気機械等を中心に前2ヵ月増加のあと減少した。また、耐久消費財は、暖ちゅう房熱機器、乗用車、光学機械・同部品を中心に、また建設財も、建設用金属製品、土石製品の減少を主

因に、ともに前月増加のあと減少した。さらに、非耐久消費財(ニットおよび繊維二次製品、灯油)、資本財輸送機械(普通・小型自動車、トラック)も各々2ヵ月連続の減少となった。

(出荷——減少)

10月の出荷(速報)は、-3.0%と前月増加(+2.4%)のあとかなりの減少となった(前年同月比-2.5%)。

財別には、一般資本財、生産財を中心に各財とも減少した。

すなわち、一般資本財は、繊維機械等が増加したものの、土木建設機械、化学機械、産業用電気機械が減少したことから全体でも3ヵ月振りの減少となったほか、生産財も不況カルテル実施の化学品(エチレンおよび各種誘導品)や鋼管、繊維製品を中心に減少した。また、耐久消費財は洗濯機(物品税引上げ前の駆け込みの反動)、光学機械・同部品、ラジオ・テレビ音響装置等の減少から、資本財輸送機械は小型トラック(物品税絡みの反動)、普通・小型自動車を中心に、いずれも前月増加のあと減少を示した。さらに、非耐久消費財はニットおよび繊維二次製品等を中心に3ヵ月振

## 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減(-)率・%)

	56年	57年				57年		
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月
鉱 指 数	150.7	149.2	146.8	149.3	148.5	150.3	146.6	
工 前期(月)比	2.0	-1.0	-1.6	1.7	-0.5	1.2	-2.5	
業 前年同期(月)比	5.7	3.6	1.5	1.0	1.5	0.6	-2.9	
投 資 財	0.8	0.5	-3.6	1.3	0.4	2.3	-3.8	
資 本 財	1.4	1.1	-3.8	0.8	1.5	1.7	-3.7	
同 (輸送機械を除く)	1.5	1.5	-2.9	1.7	1.2	2.7	-4.0	
輸 送 機 械	-0.2	0.0	-5.7	-3.2	0.9	-1.0	-2.9	
建 設 財	-0.2	-1.9	-2.4	2.3	-2.9	3.3	-2.8	
消 費 財	3.8	-1.5	0.1	4.2	-1.0	0.4	-1.8	
耐久消費財	4.8	-1.3	-1.4	6.2	-3.5	1.7	-3.0	
非耐久消費財	2.0	-1.7	2.3	1.9	-2.6	-1.4	-1.1	
生 産 財	1.3	-1.2	-1.8	0.1	-0.5	1.0	-2.3	

(注) 通産省調べ。57年10月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

## 鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減(-)率・%)

	56年	57年				57年		
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月
鉱 指 数	142.1	140.5	138.3	140.8	139.6	143.0	138.7	
工 前期(月)比	0.6	-1.1	-1.6	1.8	-0.2	2.4	-3.0	
業 前年同期(月)比	4.3	2.1	0.2	-0.3	-0.4	0.6	-2.5	
投 資 財	-0.2	0.2	-4.2	2.3	1.8	4.5	-5.1	
資 本 財	-0.1	1.6	-4.9	2.1	2.4	5.2	-6.2	
同 (輸送機械を除く)	0.7	2.0	-4.3	4.0	2.4	6.4	-8.1	
輸 送 機 械	-3.7	-0.7	-5.0	-0.5	1.5	4.3	-3.3	
建 設 財	0.2	-4.1	-1.4	2.7	-0.6	1.8	-1.0	
消 費 財	2.1	-1.9	0.8	2.1	-1.5	2.5	-1.9	
耐久消費財	4.1	-1.5	-2.8	3.6	-2.0	3.9	-2.0	
非耐久消費財	0.9	-1.9	3.9	0.1	0.5	0.2	-1.0	
生 産 財	0.3	-1.3	-1.3	0.9	-0.3	1.3	-2.6	

(注) 通産省調べ。57年10月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

りの減少を示し、建設財も建設用金属製品、セメント等の減少から、前月増加のあと減少した。

#### (在庫——減少)

10月の在庫(速報)は、-1.6%と前月に続く減少となった(前年同月比+1.5%)。

財別にみると、生産財、耐久消費財を中心に各財とも減少した。

すなわち、生産財は板紙、紡績等が増加したものの、プラスチック、有機薬品、石油製品一般機械部品等が生産抑制を映じ減少したことから、また耐久消費財も民生用電気機械、二輪自動車を中心に、ともに前月に続く減少となった。また、建設財は、H形鋼、ガス風呂がまが増加したものの、建設用金属製品、土石製品等が減少したことから、資本財輸送機械は、普通・小型自動車、トラックを中心に、ともにかなりの減少を示した。さらに、非耐久消費財は、家庭用合成洗剤、液化石油ガスを中心に、一般資本財は、土木建設機械、通信機械の減少から、いずれも減少となった。

#### (民間設備投資——関連指標はいずれも減少)

10月の機械受注(船舶、電力を除く民需)は、-15.5%と前2か月増加(8月+13.9%、9月

+1.6%)のあと大幅に減少した(前年比-15.6%)。

業種別にみると、前2か月2桁の伸び(8月+20.1%、9月+11.8%)を示した製造業からの受注は、機械を除くほとんどの業種がマイナスとなり、-30.0%の大幅減少を示した一方、非製造業からの受注は、前月減少(-3.5%)のあと、鉱業等の増加から+2.4%の小幅増加となった。

また、10月の建設工事受注(民間分、速報)も前月著増(+33.8%)の反動から大幅に減少した(-29.5%)。

さらに、一般資本財出荷も、-8.1%と3か月振りに減少となった(前年同月比-1.5%)。品目別にみると、繊維機械、通信機械が増加したものの、土木建設機械、化学機械、産業用電気機械等は減少した。

#### ◇小売商況——一進一退

10月の全国百貨店売上高(通産省調べ、前年比、速報)は、天候不順から出遅れていた秋冬物衣料の売行き回復から+4.5%とやや伸びを高めた(7~9月+2.4%)。もっとも11月の都内百貨店売上高は、温暖な気候が続いたことから冬物衣料の動きが鈍く、やや伸び悩み気味に推移した模様である。

11月の耐久消費財の売行きをみると、家電製品

#### 鉱工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)末比増減(-)率・%)

	56年 (期末)		57年 (期末)		57年		
	12月	3月	6月	9月	8月	9月	10月
鉱 指 数	113.4	116.2	118.0	116.7	118.7	116.7	114.8
工 前 期(月)末比	-0.2	2.5	1.5	-1.1	0.3	-1.7	-1.6
業 前 年 同 期(月)末比	-1.2	0.4	1.5	2.8	4.5	2.8	1.5
投 資 財	-1.0	3.9	-0.4	-3.7	-0.8	-3.5	-2.5
資 本 財	-1.4	4.7	0.5	-4.2	-0.4	-5.2	-2.8
同 (輸送機械を除く)	-1.6	2.7	5.7	-1.7	0.9	-2.8	-0.7
輸 送 機 械	-1.3	8.8	-8.2	-8.9	-1.5	-9.2	-6.0
建 設 財	-2.6	3.6	-1.7	-1.2	-1.9	0.4	-3.0
消 費 財	-1.7	-0.1	1.1	2.7	1.9	-0.6	-1.3
耐 久 消 費 財	-1.2	1.5	0.9	4.3	3.3	-1.2	-2.0
非 耐 久 消 費 財	-3.3	-3.8	2.2	3.1	0.3	1.4	-1.2
生 産 財	1.0	4.1	3.0	-2.4	-0.2	-2.0	-1.0

(注) 通産省調べ。57年10月は速報。  
前年同月(月)末比は原指数による。

#### 需要先別機械受注・建設工事受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位：億円)

	57年			57年		
	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月
民 需	6,307 (9.2)	5,442 (-13.7)	5,283 (-2.9)	5,447 (5.7)	5,249 (-3.7)	4,710 (-10.3)
機 械 受 注	4,484 (-1.9)	4,476 (-0.2)	4,315 (-3.6)	4,473 (13.9)	4,546 (1.6)	3,842 (-15.5)
同 (船舶・電力を除く)	2,545 (-0.2)	2,473 (-2.8)	2,477 (0.2)	2,518 (20.1)	2,816 (11.8)	1,971 (-30.0)
製 造 業	3,830 (24.6)	2,960 (-22.7)	2,897 (-2.1)	2,900 (-5.0)	2,737 (-5.6)	2,576 (-5.9)
非 製 造 業	1,958 (-4.3)	1,984 (1.3)	1,865 (-6.0)	1,912 (4.0)	1,845 (-3.5)	1,889 (2.4)
同 (船舶・電力を除く)	4,535 (1.2)	3,877 (-14.5)	4,461 (15.0)	4,102 (8.0)	5,487 (33.8)	3,870 (-29.5)
建設工事受注 (民間)						

(注) 機械受注は経済企画庁調べ。建設工事受注は建設省調べ(43社ベース)。カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

は、VTR、電子レンジが引き続き好調であり、カラーテレビもまざまざの売行きとなったが、ステレオ等音響機器が依然低調に推移したほか、暖房機器も寒気到来の遅れから鈍い出足にとどまるなど品目により区々の動きとなった。

一方、11月の乗用車新車登録台数(除く軽、前年比、速報)は、ディーラーの拡販努力もあって+5.3%とかなり高い伸びとなった(前月-6.6%)。

◇商況の基調——弱含み

11月の商品市況は、石油製品、石化製品(塩ビ)がメーカーの減産強化、値上げ打出しから上伸し、合板も大手筋の経営破綻を契機に小反発した

が、反面、鉄鋼(H形鋼、冷薄、厚板)、繊維(ナイロン、天然糸)、紙(上質紙)が下落したほか、非鉄(銅、鉛、アルミ)も急反落するなど、総じてみれば弱含みで推移した。これは、

- ① 為替相場の円高反転に伴う輸入コストの低下予想や安値輸入玉の流入増懸念から市況先安観が生じたこと(銅、鉛、綿糸、そ毛糸)、
- ② 寒気到来の遅れによる冬物商戦の出足不調を眺め、流通筋の手当て姿勢が一段と慎重化したこと(綿糸、そ毛糸)、さらに、
- ③ 一部品目では、流通在庫圧迫(冷薄)やメーカー間のシェア争い(H形鋼)が市況軟化に拍車を

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(前月<期>比騰落率・%)

	ウェイト	57年		57 年					最近月の 前 月 比
		4～6月 平	7～9月 平	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	
総 平 均	1,000.0	0.3	0.8	0.6	0.3	0.4	0.2	- 0.2	1.7
食 料 品	140.9	0.2	- 0.4	- 0.1	- 0.2	0.4	- 0.2	0	- 0.5
非食料農林産物	18.9	- 0.9	0.5	1.0	0.4	0.1	0.7	- 0.3	2.1
繊 維 製 品	62.9	- 0.3	0.1	- 0.1	0.1	0	0	- 0.4	0.3
製 材・木 製 品	33.6	- 3.1	0.5	0.9	1.1	0.6	- 0.1	0.7	0.9
パルプ・紙・同製品	28.9	- 0.2	1.9	- 0.9	- 0.8	- 0.3	- 0.2	- 0.1	- 2.5
金 属 素 材	12.6	4.7	4.4	2.5	1.2	1.1	2.4	- 2.6	12.7
鉄 鋼	80.7	0.7	0.5	0.3	0.2	0.1	0	- 0.8	0.8
非 鉄 金 属	26.1	- 2.5	2.2	2.3	1.8	3.0	1.3	0.1	0.9
金 属 製 品	37.0	0.1	- 0.3	- 0.1	- 0.1	0	0.3	0.1	0
電 気 機 器	73.3	- 0.2	0.5	0.5	0.1	0.1	0.1	- 0.4	0.4
輸 送 用 機 器	74.0	0.5	0.6	0	- 0.1	0.3	0.6	- 0.5	2.4
一 般・精密機器	95.7	0.5	0.2	0	0.2	0.1	0.2	0	1.3
化 学 製 品	91.1	- 1.0	- 1.2	- 0.6	- 0.2	0.2	0.2	0.2	- 1.7
石油・石炭・同製品	102.2	1.8	3.7	1.6	1.7	0.9	1.4	- 0.4	8.4
窯 業 製 品	30.5	0.4	0.2	0	0	0	0.1	- 0.1	0.8
電 力・ガ ス	25.5	0.4	5.7	5.3	0.3	0.4	- 4.3	0	2.0
雑 品 目	66.1	0.4	- 0.5	- 0.1	- 0.6	0.2	0	0.2	- 0.6
工 業 製 品	816.4	- 0.1	0.4	0.2	0.4	0.3	0.2	- 0.2	0.9
大 企 業 性 製 品	579.9	0.1	0.4	0.2	0.4	0.2	0.4	- 0.2	1.0
中 小 企 業 性 製 品	214.6	- 0.5	- 0.2	0	0.2	0.2	0.1	- 0.1	0.1
非 工 業 製 品	158.1	1.4	2.1	1.2	0.3	0.8	1.0	- 0.6	5.5
国 内 品	801.9	- 0.1	0.3	0.2	0.3	0.3	- 0.1	0.1	0.4
輸 出 品	94.2	1.5	1.1	0.5	- 0.6	0.3	0.7	- 2.0	2.8
輸 入 品	103.9	1.9	4.2	2.3	0.9	1.1	1.8	- 0.8	9.6

(注) 日本銀行調べ。

かけたこと、

- ④ 需要低迷下、マージン縮小に苦しむ流通筋からの値引き要請が強まっていること(上質紙)、等の事情によるものである。

(卸売物価——為替円高から下落)

11月の卸売物価は前月比 -0.2%(前月 +0.2%)と6か月振りに下落した(前年同月比 +1.7%)。国内品、輸出入品別にみると、国内品が化学製品(硝酸銀、フタル酸エステル)、製材木製品(米つが正角、普通合板)等の上昇から +0.1%の微騰と

なった反面、輸出品、輸入品は為替円高の影響から各々 -2.0%、-0.8%と下落した。一方、加工段階別にみると、素原材料が -0.8%と為替円高から6か月振りの下落をみたが、中間品は製品原材料(精製糖、フタル酸エステル)、建設材料(米つが正角、普通合板)の上昇から +0.1%の微騰となった。この間、完成品は資本財(プレス機械、配電盤)が上昇した反面、消費財(食料品等)が下落したため、全体としては保合いとなった。

### 消費者物価指数の推移

(前月<期>比騰落率・%)

		ウェイト	57年		57 年			最近月の 前年 同月比
			4～6月 平均	7～9月 平均	9 月	10 月	11 月	
東京	総合	100.0	1.1	0.5	1.8	0.3	* - 1.4	* 2.3
	生鮮食品を除く総合	92.7	1.5	0.3	1.3	0.3	* 0.1	* 2.7
	(生鮮食品)	( 7.3)	(- 3.5)	( 4.4)	( 7.0)	(- 1.3)	*(- 17.4)	*(- 2.8)
	食料	37.6	0	1.3	1.6	- 0.1	* - 3.5	* 1.3
	住居	7.1	1.1	0.4	0.2	0	0.3	2.7
	光熱・水道	5.5	0	0.2	0.2	0.2	0	0.5
	家具・家事用品	4.7	- 1.0	0.2	0	0.1	0.1	- 0.3
	被服および履き物	9.4	4.3	- 3.2	11.8	2.8	0.5	4.6
	保険医療	3.4	0.2	0	- 0.1	0.5	0.2	1.2
	交通通信	9.2	1.6	1.1	0.1	0.1	- 0.1	3.8
	教育	6.0	5.8	0.1	0	0	0	5.9
	娯楽	11.7	1.0	1.6	0.6	- 0.3	* - 0.6	* 2.6
	雑費	5.4	0.9	0.3	0.6	- 0.3	0.1	1.7
全国	季調済 総合	100.0	0.1	1.1	0.6	0.2	- 0.7	-
	生鮮食品を除く総合	92.7	0	0.8	0.6	0.3	0.3	-
	総合	100.0	1.0	0.5	1.8	0.3	...	3.1
	生鮮食品を除く総合	92.6	1.4	0.3	1.2	0.5	...	2.7
	(生鮮食品)	( 7.4)	(- 2.9)	( 1.3)	( 7.8)	(- 1.6)	( ...)	( 7.5)
	特殊分類 農水畜産物	14.2	- 1.6	1.3	4.4	- 0.7	...	5.3
	工業製品	45.2	1.2	0	2.4	0.8	...	2.0
	うち大企業性製品	21.3	0.2	0.7	0.2	0.2	...	1.5
	中小企業性製品	23.9	2.3	- 0.6	4.4	1.3	...	2.3
	サービス	34.0	2.0	0.5	0	0.2	...	3.7
	季調済 総合	100.0	- 0.1	1.1	0.6	0.3	...	-
	生鮮食品を除く総合	92.6	0.1	0.8	0.6	0.5	...	-

(注) 1. 総理府統計局調べ(55年基準)。

2. \* は速報。

(消費者物価——11月＜東京都区部、速報＞は-1.4%の下落)

11月の消費者物価(東京都区部、速報)は、前月比-1.4%の下落となった(前年同月比+2.3%)。これは、生鮮食品を除くベースでは冬物衣料(婦人オーバー等)の値上りから+0.1%の微騰となったものの、生鮮食品(野菜、果物等)が、出回り増から-17.4%の大幅下落となったことによるものである。

#### ◇長期資本収支の流出超幅は引続き小幅化

10月の国際収支をみると、貿易収支(季節調整後)の黒字幅は前月比やや縮小したものの、貿易外・移転収支の赤字幅が小幅化したため、経常収支の黒字幅は10.0億ドルと前月(7.9億ドル)に比べ幾分拡大した(原計数ベースでは14.3億ドルの黒字)。この間、長期資本収支は、本邦資本の流出幅が引続き縮小した一方、外国資本が比較的高水準の流入超となったことから、全体では2.9億ドルの赤字と、前月(4.1億ドル)に比べ赤字幅はさらに縮小した(56年11月以来の小幅赤字)。一方、総合収支は、短期資本収支が現先取引を中心に流出超となったことなどから0.7億ドルと小幅ながら赤字となった(前月8.2億ドルの黒字)。

また、10月末の外貨準備高は228億ドルと前月

に続き減少した(前月末比-11.7億ドル、前年同月比-56.1億ドル)。

#### (輸出——数量は増加)

10月の輸出(国際収支ベース、季節調整済み)は、-3.8%(前月+0.1%)と再び減少したが、数量(通関)ベースでは+5.3%と3ヵ月振りに増加した。品目別(通関、数量ベース)にみると、一部家電製品(ラジオ、テープレコーダー)が輸出先における現地在庫調整の進捗から増加したほか、前月著減の鉄鋼、船舶も反動増となった。

なお、11月の輸出信用状接受高(季節調整済み)は+0.9%と小幅ながら3ヵ月連続の増加となった。品目別には、鉄鋼が減少したものの、ウェイトの高い機械が前月に続き増加したほか、化学製品もかなりの増加をみた。

#### (輸入——数量は増加)

10月の輸入(国際収支ベース、季節調整済み)は、-2.5%(前月-1.0%)と引続き減少したが数量(通関)ベースでは+5.0%と増加した(前月-4.7%)。品目別(通関、数量ベース)にみると、鉄鉱石、石炭が鉄鋼の減産強化から引続き減少した反面、原油、非鉄鉱石が引続き増加し、また綿花も増加した。

国 際 収 支

(単位・百万ドル、カッコ内は貿易収支季調後の計数)

	57 年			57 年			前年同月
	1～3月	4～6月	*7～9月	*8 月	*9 月	*10 月	
経 常 収 支	△ 912 ( 915)	2,582 ( 2,774)	2,844 ( 2,186)	△ 30 ( 632)	1,463 ( 789)	1,429 ( 1,003)	1,778 ( 1,319)
貿易収支	2,439 ( 4,266)	5,312 ( 5,504)	5,739 ( 5,081)	984 ( 1,646)	2,426 ( 1,752)	1,991 ( 1,565)	2,952 ( 2,483)
輸 出	34,994	35,216	33,976	10,405	11,650	11,060	13,182
輸 入	32,555	29,904	28,237	9,421	9,224	9,069	10,230
貿易外収支	△ 2,883	△ 2,495	△ 2,597	△ 949	△ 842	△ 451	△ 995
移 転 収 支	△ 468	△ 235	△ 298	△ 65	△ 121	△ 111	△ 169
長期資本収支	△ 5,805	△ 4,569	△ 4,661	△ 2,286	△ 416	△ 291	△ 1,209
本 邦 資 本	△ 7,435	△ 6,600	△ 6,803	△ 2,212	△ 1,797	△ 1,480	△ 1,703
外 国 資 本	1,630	2,031	2,142	△ 74	1,381	1,189	494
基礎的収支	△ 6,717 (△ 4,890)	△ 1,987 (△ 1,795)	△ 1,817 (△ 2,475)	△ 2,316 (△ 1,654)	1,047 ( 373)	1,138 ( 712)	579 ( 110)
短期資本収支	865	△ 2,851	△ 248	958	△ 1,420	△ 768	△ 1,867
誤 差 脱 漏	2,561	1,458	1,196	961	1,196	△ 443	△ 163
総 合 収 支	△ 3,291	△ 3,380	△ 73	△ 397	823	△ 73	△ 1,451
金 融 勘 定	△ 3,291	△ 3,380	△ 73	△ 397	823	△ 73	△ 1,451
外 貨 準 備 増 減	△ 1,172	△ 1,744	△ 1,478	△ 1,253	△ 407	△ 1,169	468
そ の 他	△ 2,119	△ 1,636	1,405	856	1,230	1,096	△ 1,919
外 貨 準 備 高	27,231	25,487	24,009	24,416	24,009	22,840	28,448
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 41,342	△ 41,394	△ 41,701	△ 42,267	△ 41,701	△ 40,529	△ 39,554

- (注) 1. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 2. 金融勘定の△印は純資産の減少。  
 3. \*印は暫定。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支 ベ ー ス			通 関		輸 出 信用状
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	
57 年 1 ～ 3 月 平 均	12,503 ( 0.0)	11,081 (+ 1.8)	1,422	12,707 (+ 0.2)	12,200 (+ 2.3)	8,010 (- 3.6)
4 ～ 6   〃	11,767 (- 5.9)	9,932 (- 10.4)	1,835	11,879 (- 6.5)	10,933 (- 10.4)	7,914 (- 1.2)
*7 ～ 9   〃	12,207 (- 4.8)	9,514 (- 4.2)	1,694	11,159 (- 6.1)	10,495 (- 4.0)	7,908 (- 0.1)
57 年   *7 月	11,222 (- 0.7)	9,539 (+ 0.4)	1,683	11,381 (- 1.2)	10,559 (+ 1.2)	8,026 (+ 1.8)
*8   〃	11,193 (- 0.3)	9,547 (+ 0.1)	1,646	11,003 (- 3.3)	10,521 (- 0.4)	7,821 (- 2.6)
*9   〃	11,207 (+ 0.1)	9,455 (- 1.0)	1,752	11,092 (+ 0.8)	10,406 (- 1.1)	7,876 (+ 0.7)
*10 〃	10,782 (- 3.8)	9,217 (- 2.5)	1,565	10,958 (- 1.2)	10,248 (- 1.5)	7,987 (+ 1.4)

- (注) 1. カッコ内は対前期(月)比増減(一)率(%)。  
 2. 輸出信用状接受高は特殊大口を除く。  
 3. \*印は暫定。